

「音楽で暮らしに感動を届ける」ザ・シンフォニーホールの情報誌

Vol.53

2022 9月-11月

2022 9/10 発行

TAKE FREE



Sinfonia

シンフォニア

©Deutsche Grammophon

DANIEL BARENBOIM

The Symphony Hall 開館40周年記念シリーズ 世界の巨匠とともに

ダニエル・バレンボイム指揮

ベルリン国立歌劇場管弦楽団 (シュターツカペレ・ベルリン)

Close Up

ザ・シンフォニーホール カウントダウン&ニューイヤーコンサート

令和4年 オールスター 紅白オペラ歌合戦 2022

ゲルハルト・オピッツ プレミアム ピアノ・リサイタル

ほか

©monika Rittershaus



世界から称賛を集める最強タッグが、ザ・シンフォニーホールへ17年ぶりに登場！

間が、バレンボイム氏の設立したウエストリースタン・ディヴァン管弦楽団に参加していることも大変喜んでくださいました。昨年秋にベルリンでお会いした際には、ルービンシュタイン直伝、という葉巻の吸い方を私に教えてくださったことも、かけがえない思い出になっています」

ザ・シンフォニーホールでの公演は17年ぶりとなるバレンボイム&SKB。演目は、十八番のブラームスより交響曲第1&2番を予定しているが、このコンビは2017年に全集録音を発表。中村氏はその印象を踏まえつつ、今回の聴きどころを次のように語る。

「第1番はテンポが全体的にやや遅めで、落ち着き払った、中庸の美、が魅力。細部に至るまで楽譜に忠実で、奇をてらったトレンドに流されない。特に緩徐楽章は『究極の美』と言えるのではないのでしょうか。そうした音楽作りは第2番にも同じことが言えて、最

終楽章などは音楽的にかなり突っ込んでいるのですが、冷静さが失われることが決まっていたのが本当にすごいです。バレンボイム氏は、SKBの音楽監督に就任して今年でちょうど30年目。両者の音楽性は、もはや完全に一体化していて、今年3月に私がベルリンで彼らの演奏するモーツァルト『ドン・ジョヴァンニ』のオペラを鑑賞した時は、演出や歌手陣までもがすべてひとつになっていました。そんなバレンボイム&SKBの演奏は、ザ・シンフォニーホールの豊かな音響との相性が抜群だと思います」

**今年80歳とは思えない
パワフルさに驚嘆**

さらに中村氏は、マエストロならではの超人ぶりに数多く接したという。

「先ほど申し上げた『ドン・ジョヴァンニ』を指揮した翌日の午前中に、奥様でピアニストのエレーナ・バシキロワさんとデュオ・コンサート。さらに同日の午後には別の公演のリハーサル：という超過密スケジュールを淡々とこなしておられて、今年80歳とは思えないパワフルさに驚嘆しました。その約1週間後に体調を崩して緊急入院してしまいましたが、現在は退院し、音楽への情熱をさらに増幅されているそうです。また、彼は本当に頭がよくて、2、3年



ダニエル・バレンボイム指揮 ベルリン国立歌劇場管弦楽団 (シュターツカペレ・ベルリン) 大阪公演

世界的巨匠ダニエル・バレンボイムが30年に及び音楽監督を務めるベルリン国立歌劇場管弦楽団とザ・シンフォニーホールに17年ぶりに来日！今号では、巨匠バレンボイムの人となり、近況に迫るインタビューをお届けする。

ザ・シンフォニーホール開館40周年の目玉、ダニエル・バレンボイム指揮・ベルリン国立歌劇場管弦楽団（シュターツカペレ・ベルリン、以下SKB）の公演がいよいよ近づいてきた。現在79歳で、来日時には80歳を迎えるバレンボイムは、指揮者およびピアニストとして、まさに世界最高峰の一角と言ってよいだろう。今回は、その人となりを間近でよく知る方にインタビュー。それは、今回の招聘を手がける株式会社テンポブリモの代表取締役・中村聡武氏だ。今年の3月にもベルリンでバレンボイムと面会した彼に、その魅力や、今回の公演の聴きどころなどを訊いた。

**細部に至るまで楽譜に忠実で、
トレンドに流されない**

バレンボイムは昨年モーツァルトとして来日公演を行ったが、中村氏はその時にも招聘を担当している。

「直接お目にかかったのはその時が初めてでしたが、最初の頃は偉大なるマエストロならではの近寄りたいたいオーラがありましたね（笑）。でも、食事を何度も一緒にする中で、ジョークを連発してくださり、少しずつ距離が縮まっていた。また、私は約20年前に中東でヴァイオリンの指導を行っていたのですが、現地の演奏家仲

後のスケジュールが全部頭に入っておられるとのこと。そのことは、音楽や政治に関する理知的なスピーチの数々からもよくわかることでしょう」

中村氏によると、そんなバレンボイムは大の親日家で、今回の来日も非常に楽しみにしているというから嬉しい限りだ。

「演奏中に音をたてず、演奏後も余韻を楽しんでから拍手を贈ってくれる。世界一礼儀正しく、音楽をわかっているのが日本人で、それはまさに日本文化の賜物。そんな日本のクラシック音楽ファンを心の底から尊敬している」と、バレンボイム氏は常々と仰っていました。大阪公演が本当に楽しみです」

（文 渡辺謙太郎）

発売中

【指揮】ダニエル・バレンボイム
【管弦楽】ベルリン国立歌劇場管弦楽団
(シュターツカペレ・ベルリン)

ブラームス 交響曲 第1番 ハ短調 op.68 / 交響曲 第2番 ニ長調 op.73

2022.12/3(土) 5:00PM
S 28,000円 A 24,000円 B 売切 (税込)
【お問い合わせ】ザ・シンフォニー チケットセンター
06-6453-2333
【主催】ザ・シンフォニーホール



©Concerto Winderstein

ゲルハルト・オピッツ プレミアム ピアノ・リサイタル

ピアノ界の巨匠による円熟の境地！
10年ぶりにザ・シンフォニーホールでリサイタル

オピッツのレパートリーの中心は、ベートーヴェンとブラームスを核とするドイツ音楽だ。けっして技巧をひけらかさない深く誠実な音は、揺るぎないドイツ音楽の正統を感じさせる。師である20世紀の大巨匠ケンプから多くを継承したオピッツだが、もちろん師のコピペなどではない。学んだのは作品と向き合う姿勢だろう。スコアの間から作曲家の意図のしずくを丁寧に掬い取って、知性と理性で生命を吹き込む音楽作り。私たちはオピッツのピアノから、古め

かしい「型」ではなく、現代に息づく、現在進行形の「生きた伝統」を受け取るのだ。まさに現代の巨匠。ドビュッシー、ラヴェルを始めとするフランス音楽や、20世紀以降の近現代音楽も積極的に関心を持って弾く。そこはケンプと同じ年のレジェンドだったギーゼキングとタイプが似ているかもしれない。日本人の愛妻を持つ親日家。彼が今年も帰って来る。ザ・シンフォニーホールでのリサイタルは、オピッツの代名詞ともいえるベートーヴェンにシューマンを組み合わせた、がっつりドイツ・プログラム。「ハイリゲンシュタットの遺書」の頃に書かれた《テンペスト》と《ワルトシュタイン》に参む生と芸術への決意。子供の心を失わない大人たちのためのファンタジー《子供の情景》と、シューマンの空想のキャラクターである「フロレスタン」と「オイゼビウス」が妻クララへ贈ったピアノ・ソナタ。《テンペスト》に現れるシェイクスピアの象徴を含め、「幻想」とい

自らが選定したピアノで奏でる 正統派ドイツ音楽

グローバル化が進み、国や地域ごとの文化の伝統的な様式感はかなり曖昧になった。たとえばドイツとフランスのオーケストラを、音だけで確実に聴き分けるのはもはや難しいだろう。「ドイツ音楽の真髄」とか「フランス音楽のエスプリ」とかの言葉が、もしこのまま失われていくとしたら寂しい。でも私たちにオピッツがいる。

オピッツのレパートリーの中心は、ベートーヴェンとブラームスを核とするドイツ音楽だ。けっして技巧をひけらかさない深く誠実な音は、揺るぎないドイツ音楽の正統を感じさせる。師である20世紀の大巨匠ケンプから多くを継承したオピッツだが、もちろん師のコピペなどではない。学んだのは作品と向き合う姿勢だろう。スコアの間から作曲家の意図のしずくを丁寧に掬い取って、知性と理性で生命を吹き込む音楽作り。私たちはオピッツのピアノから、古め



うテーマも見え隠れする。

現在ザ・シンフォニーホールにあるスタインウェイのうち最新の一台は、その選定をオピッツに委ねた楽器だ。2017年12月、来日中のオピッツが東京のセレクトシヨールームでじっくり選んだ。当日のゲストブックにはドイツ語でこう記されている。

「私のお気に入りの、ワンダフルなザ・シンフォニーホールのために素晴らしいピアノを選びました」
ホールとピアノリストの信頼を物語るエピソード。でも実はそのピアノをザ・シンフォニーホールで弾くのは今回が初めて。愛するホールの響きの中で、ふるいにかけて選んだ楽器と再会する。いつにも増して優しく丹念に、骨太なドイツの音を聴かせてくれるはずだ。

(文 宮本 明)

【ピアノ】ゲルハルト・オピッツ

ベートーヴェンピアノ・ソナタ 第17番 二短調 op.31-2 「テンペスト」/ピアノ・ソナタ 第21番 八長調 op.53 「ワルトシュタイン」/シューマン「子供の情景」op.15/ピアノ・ソナタ 第1番 嬰へ短調 op.11

2022.11/19(土) 2:00PM

SS 10,000円 S 8,000円 A 6,000円 (税込)

【お問い合わせ】ザ・シンフォニー チケットセンター

06-6453-2333

【主催】ザ・シンフォニーホール

発売中

イタリア交響楽団

Orchestra Haydn di Bolzano e Trento-Italia

チョン・ミン率いるイタリア交響楽団が4年ぶりに来演。
気鋭ピアニストの共演にも注目!

指揮 チョン・ミン

管弦楽 イタリア交響楽団



©上野隆文



雄大かつヒーロー的な
演奏に期待

約4年ぶりに、チョン・ミン＆イタリア交響楽団が来日する。

チョン・ミンは、ザールブリュッケン生まれ。それは当時、彼の父親であるチョン・ミヨンファンがザールブリュッケン放送交響楽団の首席指揮者を務めていたからにほかならない。その後、チョン・ミヨンファンは、パリ・オペラ座（バステュー歌劇場）の音楽監督に就任。それに伴って、ミンもパリで育ち、ピアノ、ヴァイオリン、コントラバスなどの演奏を通して、音楽の基礎を学んだ。ソウル国立大学校ではドイツ文学とヴァイオリンを専攻。

そして、チョン・ミンもまた父親と同じ指揮者の道を歩み始めた。

ピアノ バク・ジェホン



©Tiberio Sorvillo

た。2007年に釜山のアロイスウス・オーケストラを指揮してデビュー。日本では、2013年以来、東京フィルと共演を重ね、2015年に同フィルのアソシエイト・コンダクターに就任した。また、イタリアでの活躍が顕著で、2019年6月にイタリア交響楽団と日本ツアーを行い、成功に導いた。現在、同オーケストラの首席客演指揮者を務めている。

チョン・ミンの指揮姿は、コンクール出身者のような洗練されたものではなく、どちらかといえば粗削りで個性的であり、その分、彼の音楽は面白い。筆者は、かつて彼が東京フィルで指揮した、チャイコフスキーの交響曲第5番やベートーヴェンの交響曲第5番「運命」などを聴いたことがあるが、彼はオーケストラをよく鳴らし、堂々たるフィナーレを築き上げていた。

来年1月のイタリア交響楽団の来日公演では、チョン・ミンが得意とするイタリア音楽とベートーヴェンの作品でプログラムが組まれている。ベートーヴェンの交響曲第3番「英雄」では、雄大かつヒーロー的な演奏を聴かせてくれるに違いない。

イタリア交響楽団は、オーストリア国境に近い北部イタリアにあるトレンティーノ・アルト・アディ

ジェ州（ボルツァーノとトレントが二大都市）を本拠地としている。首席指揮者は、グスタフ・クレーンらを経て、現在、オッターヴィオ・ダントーネが務めている。そのほか、アバド、ムーティ、シャイー、ゼッダら、イタリアを代表する指揮者たちと共演。

ベートーヴェンのピアノ協奏曲第3番で独奏を務めるのは、2021年に、若きアルゲリッチも優勝したイタリアのブゾーニ国際コンクールで第1位を獲得した、バク・ジェホン。韓国出身の気鋭のピアニストにも期待したい。

（文 山田治生）

[指揮] チョン・ミン [ピアノ] バク・ジェホン

[管弦楽] イタリア交響楽団

ロッシーニ: 歌劇「ブルスキーン公」序曲／ベートーヴェン: ピアノ協奏曲 第3番 ハ短調 op.37／ベートーヴェン: 交響曲 第3番 変ホ長調 op.55 「英雄」

2023.1/30(月) 7:00PM

S 10,000円 A 8,000円 B 6,000円 C 4,000円

S席ペア券 18,000円 (税込)

[お問い合わせ] 日本アーティストチケットセンター 03-5305-4545

[主催] 日本アーティスト/ザ・シンフォニーホール

[先行予約: 9/22(木) 一般発売: 9/25(日)]

TheSymphonyHall New Year Concert

ニューイヤーコンサート 2023

関西を元気に！
3年ぶりの開催決定！
念願のニューイヤーコンサートは、華やかに新年を彩るプログラム！

晴れやかなシーンの数々を多くのお客様と分かち合いたい！



ピアノ 萩原麻未



ピアノ 砂川涼子



指揮 樋口達哉

[司会]堀江政生(朝日放送テレビアナウンサー)

レハール:ワルツ「金と銀」/グノー:歌劇「ファウスト」より「宝石の歌」/ヴェルディ:歌劇「リゴレット」より「女心の歌」/プッチーニ:歌劇「ラ・ボエーム」より「愛らしい乙女よ」/R.コルサコフ:交響組曲「シェエラザード」op.35より 第3楽章「若い王子と王女」/ラフマニノフ:ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 op.18より第3楽章/ラヴェル:ボレロ/プッチーニ:歌劇「ジャンニ・スキッキ」より「私のお父さん」/プッチーニ:歌劇「トゥーランドット」より「誰も寝てはならぬ」/プッチーニ:歌劇「マノン・レスコー」より 第3幕への間奏曲(12/31のみ)/J.シュトラウスⅡ世:ワルツ「美しく青きドナウ」op.314(1/1のみ)/レスピーギ:交響詩「ローマの松」より「アッピア街道の松」

2022.12/31(土) 10:00PM

先行予約:9/24(土) 一般発売:9/25(日)

2023.1/1(日) 3:00PM

両日 S 7,700円 A 6,600円 B 5,500円 (税込)

[お問い合わせ]ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333 [主催]ザ・シンフォニーホール



祝い酒をご用意！

※コロナウイルスの感染状況により、中止になる場合がございます。

プログラムは、盤石かつ渾身の演奏で繰り広げられるコルサコフの『シェエラザード』より、若い王子と王女、や、ホールに高らかに響くレスピーギ「ローマの松」より、アッピア街道の松。プッチーニ「トゥーランドット」より、誰も寝てはならぬ、「マノン・レスコー」より第3幕への間奏曲(12/31のみ)などの名曲が多数並び、新春を迎える晴れやかな感興に包まれるに違いない。ニューイヤーコンサートではシュトラウスⅡ世「美しく青きドナウ」(1/1のみ)といった新春にふさわしいワルツも加わり、耳にも心にも麗しく響き渡るだろう。さらに今回はバレエも上演予定で、この上なく贅沢なステージが約束されている。

2015年から恒例となっていたカウントダウン&ニューイヤーコンサートは、欧米の音楽都市のようなステージを気軽に味わってみたいと毎年豪華な出演者を迎えて開催してきた。そして、関西の音楽界を 뜨氣づける、という変わらない使命のもと、3年ぶりに晴れやかに開催する。

毎年恒例であった花や梅酒を設置したロビーの正月仕様の装い、ステージでの鏡開き、祝い酒の提供も予定しているので、そちらもぜひお楽しみに！！

(文 渡辺謙太郎)

TheSymphonyHall Count Down Concert

カウントダウンコンサート 2022-2023

めくるめく名曲を堪能！
日本を代表するアーティストが集結！
壮麗な響きに新年への期待が高まる！

年末年始はザ・シンフォニーホールへ！



管弦楽 日本センチュリー交響楽団



©Hoshi Hikaru



新春の鏡開き！



彩り溢れるロビー！



名曲の玉手箱！

3年ぶりの開催決定！
豪華出演者とともに年越しを！

「昨今のコロナ禍の影響で、残念ながら開催延期に…」という言葉を書き続けて3年あまり。ようやくこの言葉を使わず、「コロナ禍を乗り越えて、音楽ファンの皆様に朗報！」とお伝えできる機会が少しずつ戻ってきた。今回はまさにそんな嬉しいお知らせ！2020年から新型コロナウイルスの影響で開催をストップしてきた、ザ・シンフォニーホールのカウントダウン&ニューイヤーコンサートが3年ぶりに開催される！

12月31日の22時に開演し、会場一体となって新たな年へ向かうカウントダウンコンサート。そして、1月1日の午後3時に幕を開けるニューイヤーコンサート。両公演には、国内外での活躍が目覚ましい角田鋼亮が、昨年のジルベスターコンサートに続き登場。日本センチュリー交響楽団とともに、色彩豊かな名曲を演奏し、宴をリードしていく。気になる共演は、2010年に難関ジュネーヴ国際音楽コンクールのピアノ部門で日本人初優勝を飾った萩原麻未、日本のオペラ界を担う樋口達哉(テノール)とザ・シンフォニーホールでのリサイタルで大阪のファンを魅了した砂川涼子(ソプラノ)という豪華な顔ぶれ。



PROGRAM

周防彩子
グノー
歌劇「ロメオとジュリエット」より
“私は夢に生きたい”



梨谷桃子
プッチーニ
歌劇「蝶々夫人」より
“ある晴れた日に”



堀口 莉絵
ヴェルディ
歌劇「サン＝ボニファチオ伯爵オペラ」より
“誰がこの熱き思いを戻してくれるのか”



畑 友実子
マスネ
歌劇「エロディアド」より
“彼は優しい人”



十合翔子
ロッシーニ
歌劇「セヴィリアの理髪師」より
“今の歌声は”



松浦 優
ビゼー
歌劇「カルメン」より
“何を恐れることがありません”



湯浅 契
プッチーニ
歌劇「ラボエーム」より
“私の名はミミ”



田中友輝子
サン＝サーンス
歌劇「サムソンとデリラ」より
“あなたの声に私の心は開く”



並河寿美
グノー
歌劇「ロメオとジュリエット」より
“ああ、なんという戦慄が”



CAPTAIN
斉藤 昌子
リチャード・ロジャーズ
ミュージカル
「サウンドオブミュージック」より
“すべての山に登れ”

紅

令和4年年越しスペシャル

ザ・シンフォニーホールの年末恒例
関西オペラ界を担う20名の歌手が集結！
熱き戦いは見逃せない！！



指揮 栗辻 聡



管弦楽 大阪交響楽団

オールスター

紅 白

オペラ歌合戦

2022

白

PROGRAM

伊藤友祐
ロッシーニ
歌劇「セヴィリアの理髪師」より
“私は町の何でも屋”



水口健次
レオンカヴァッロ
歌劇「進化師」より
“衣装をつける”



榎 貴志
ミッツ・リー
ミュージカル「ラマンチャの男」より
“見果てぬ夢”



大谷圭介
レオンカヴァッロ
歌劇「ザザ」より
“ザザ、かわいいジプシーの娘よ”



湯浅貴斗
ロッシーニ
歌劇「セヴィリアの理髪師」より
“陰口はそよ風のように”



小餅谷哲男
ビゼー
歌劇「カルメン」より
“花の歌”



西尾岳史
ヴェルディ
歌劇「オテッロ」より
“イヤーゴの信条”



松澤政也
ニーノ・ロータ
映画「ゴッドファーザー」より
“愛のテーマ”



松本薫平
プッチーニ
歌劇「トゥーランドット」より
“誰も寝てはならぬ”



CAPTAIN
田中 勉
ヴェルディ
歌劇「リゴレット」より
“悪魔め鬼め”



これを見ずして年は越せない！
今年はミュージカル曲も披露！
勝負を決めるのは、会場のお客様！！

今年も開催決定！
日本の日の出を願う大公演！

年末にふさわしい
特別感あるコンサート

ザ・シンフォニーホールの年末の風物詩である「オールスター紅白オペラ歌合戦」。関西の音楽界をさらに元気に！をモットーに2018年にスタートして以降、お客様に愛され続け、今年で5回目を迎える人気企画です。気鋭の若手、中堅からベテランまで、関西オペラ界を担う選りすぐりの歌手たちが一堂に集結するのが、なんとも豪華！今年は紅組10名、白組10名が、オペラ歌合戦の名のもとに、紅白対抗形式で歌を披露していきます。

このシリーズの大きな魅力は、若手、ベテラン、中堅が一堂に会し、オペラの名曲を1度に聴くことができるところ。初回よりキャプテンを務め、紅組を引っ張ってきた斉藤昌子は、「毎回、特別感のあるステージが実現できている」「若手のこの1年の成長ぶりを見るのも楽しみ」とシリーズについて話します。

また、白組キャプテンの田中勉も「約2時間半でこれだけのラインナップを堪能できる機会はほとんどない」「若い世代のオペラ

歌声や表現力によって、違った聴きどころを堪能できるのも、このシリーズの醍醐味です。関西ならではの明るいキャラクターや、凛々しく美しい、煌びやかな衣装にも注目です。

魅力として欠かせないのが、歌手の迫力ある歌声とオーケストラとのハーモニーが味わる豪華さ。今年は、栗辻聡（2回目の出演）指揮のもと、大阪交響楽団による色彩豊かな演奏を是非お楽しみください！

オペラアリアに加え、新たに
ミュージカルの名曲も！

紅か白か!? 勝負の行方を
決めるのは会場のお客様！

ヴェルディ、プッチーニ、ロッシーニなど毎年、聴き馴染みがある、皆が大好きなオペラアリアの名曲がラインナップに並んできましたが、今年は新たなエッセンスとして、『サウンド・オブ・ミュージック』より「すべての山に登れ」や、『ラマンチャの男』より「見果てぬ夢」というミュージカルの名曲や、映画『ゴッドファーザー』より「愛のテーマ」なども披露されるので、期待が高まります。そして、この紅白オペラ歌合戦の

贅沢な競演の後には、歌合戦恒例の勝負の行方が決まります。審査員の他、お客様も投票に参加していただきます。（※入場時に皆様に配布されるプログラムが紅・白の両面使用となっております、お客様が良かった！と思うチームの色をステイジに向け、集計されます。毎回、悩みに悩む審査員、お客様の様子も緊迫感と期待感があり、ドキドキ！昨年は白組が勝ちましたが、今年は果たして…！

ファンが増えてほしい」と期待を込めています。

歌声、表現力によってそれぞれ違った聴きどころを堪能できる

キャプテンの斉藤、田中の他に今年は、【白組】伊藤友祐、大谷圭介、小餅谷哲男、西尾岳史、榎貴志、松澤政也、湯浅貴斗【紅組】梨谷桃子、並河寿美、堀口莉絵、湯浅契という過去に本シリーズに登場し素晴らしいステージを見せてくれた歌手が再登場！水口健次、松本薫平、田中友輝子、周防彩子、畑友実子、十合翔子、松浦優という強力なメンバーが初めて出演します。

周知のとおり、実力派歌手たちによる、活みなぎる歌声が会場に響き渡れば、一瞬にしてお客様の心を掴むこと、間違いない！それぞれの歌手が持つ個性ある

オペラが好き、クラシックが好き、ザ・シンフォニーホールが好き。すべてのお客様に楽しんでもらえることを願って。決戦は12月22日に繰り広げられます！

[指揮] 栗辻 聡
[管弦楽] 大阪交響楽団
[司会] 堀江政生 (朝日放送テレビ)、八塚彩美 (朝日放送テレビ)

2022.12/22(木) 6:30PM
S 8,800円 A 7,700円 (税込)
[お問い合わせ] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333
[主催] 一般財団法人ザ・シンフォニーホール芸術文化振興財団
公益社団法人大阪交響楽団
[後援] 一般社団法人日本クラシック音楽事業協会
先行予約: 9/24(土) 一般発売: 9/25(日)

ザ・シンフォニーホールの開館40周年を記念した、
関西4オーケストラとのコラボレーション企画。
トップバッターを飾った大阪交響楽団は、
オール・バーンスタイン・プログラムでホールの40周年を祝福してくれた。
各楽団の魅力溢れるスペシャルプログラムは、次回へ続く――。



2023.1/29(日)2:00PM _ Vol.4

大阪フィルハーモニー交響楽団

華麗!!
尾高忠明の緻密な
「英雄の生涯」

発売中

[指揮]尾高忠明

ベートーヴェン:交響曲 第5番「運命」/R.シュトラウス:交響詩「英雄の生涯」



2022.11/3(木・祝)2:00PM _ Vol.3

日本センチュリー交響楽団

円熟!
秋山和慶の
フランス音楽

発売中

[指揮]秋山和慶

ベルリオーズ:「ローマの謝肉祭」序曲/ドビュッシー:牧神の午後への前奏曲/ベルリオーズ:幻想交響曲



ザ・シンフォニーホール開館40周年記念

Best of Orchestra

The Symphony Hall × 関西4オケスペシャルコンサート

2022.10/20(木)7:00PM _ Vol.2

関西フィルハーモニー管弦楽団

感動!
飯守泰次郎
渾身のブルックナー

発売中

[指揮]飯守泰次郎

ワーグナー:歌劇「タンホイザー」序曲/ブルックナー:交響曲 第4番「ロマンティック」



2022.8/28(日)2:00PM _ Vol.1

大阪交響楽団

躍動! 気鋭 原田慶太楼の
バーンスタイン

公演終了

[指揮]原田慶太楼

[ソプラノ]森谷真理 [バリトン]大西宇宙

バーンスタイン:交響曲 第1番「エレミア」/ウエスト・サイド・ストーリー「演奏会用組曲」第1番/「ウエスト・サイド・ストーリー」より「シンフォニックダンス」 ほか



PICK UP!

2022.11/3(木・祝) 2:00PM 開演

日本センチュリー交響楽団

オール・フランス・プログラムで魅せる、優美でしなやかなサウンド

世界的指揮者・秋山和慶が、日本センチュリー交響楽団の優美でしなやかなサウンドと共に贈るフランス音楽の世界。

オープニングを彩るのは、ベルリオーズ「ローマの謝肉祭」序曲。華やかに始まり、郷愁を経て、最後は熱狂へという構成と豊かな色彩感、秋山の持ち味である均整美を味わうのに打ってつけ。

続くドビュッシー「牧神の午後への前奏曲」では、淡い美しさよりも、音の立体性を明確に描き出すであろう秋山流の解釈によって、フルート、オーボエ、ホルンといった管楽器のソロが鮮やかに活躍。日本センチュリー交響楽団の名手たちの魅力が個性豊かに際立つことが予想される。

そしてラストのベルリオーズ「幻想交響曲」。作曲家自身がつけた標題に沿って音楽が進行していくという、これまでにない新機軸で描かれた、西洋音楽史に残る革命的な作品だ。ハイドンの交響曲が流行し、ベートーヴェンの交響曲ですら斬新だった作曲当時の瑞々しい感動。秋山&日本センチュリー交響楽団の端正で見通しのよい解釈で聴くことは、それを正しく知るのに最良な体験となるに違いない。

(文 渡辺謙太郎)



PICK UP!

2022.10/20(木) 7:00PM 開演

関西フィルハーモニー管弦楽団

ドイツ音楽のスペシャリストが指揮する、深みある贅沢なひととき

ヨーロッパの歌劇場を中心に長年キャリアを重ね、ドイツ音楽のスペシャリストとして君臨する飯守泰次郎。パイロイト音楽祭の元音楽総監督ヴォルフガング・ワーグナーが「飯守こそドイツ語で“Kapellmeister(カペルマイスター)”と呼ぶにふさわしく、そこにはマエストロという言葉以上に大きな尊敬の念が込められている」と評したことからも、その実力は折り紙付きだ。

そんな飯守が2001年より常任指揮者を務め、2011年より桂冠名誉指揮者を務める関西フィルハーモニー管弦楽団。

この黄金コンビで贈るドイツ音楽の夕べは、贅沢の極みと言えるひとときとなるに違いない。

幕開けのワーグナー歌劇「タンホイザー」序曲は、飯守の十八番のひとつ。濃密としなやかさが絶妙にバランスした運びが描く、美しい虹のアーチに期待が高まる。

そして、ブルックナーの交響曲第4番「ロマンティック」。高名な音楽評論家ヒューエル・タークイも激賞した「伝統的に必要とされる温かみを保持しながら、同時に大胆なほど独創的である」という世界が、さらなる深みを湛えて彫琢されることだろう。

(文 渡辺謙太郎)



50年の伝統ある名門アカペラグループ
聴きなじみのある、あの大好きな曲、を
続々披露!

The King's Singers

ザ・キングズ・シンガーズ コンサート



天にも昇るような
美しいハーモニー

合唱王国イギリスを代表する名門アカペラグループとしてシーンの頂点に君臨しているザ・キングズ・シンガーズが、この冬ザ・シンフォニーホールに来演する。

1968年にケンブリッジ大学キングス・カレッジの学生6人によって結成されて以来、数度にわたるメンバー交代を経て活動歴は50年以上!メンバーは伝統あるキングス・カレッジのプレススクールの合唱団員出身が多く、グループ加入の際には、歌曲の豊富な知識や高い歌唱力はもちろんのこと、声質や声量のバランスが他のメンバーと合うか、性格面や考え方が一致するかも含めて、トータルな

来日コンサートの他にも日本の令和を祝う特別演奏会に出席するなど、日本との関わりがとて深く親戚家でもある彼ら。メンバーのグレゴリー・ジュリアンはお母さんが日本人、お父さんがイギリス人のハーフで、他のメンバーとの日本の架け橋の役割も果たしている。ステージでは他メンバーがジュリアンから教わった日本語で簡単な曲の説明を行うシーンも!

今冬のザ・シンフォニーホール公演では、この季節にぴったりのクリスマス・プログラムが披露される。「きよしこの夜」「ホワイトクリスマス」をはじめとした定番

COLUMN



ザ・シンフォニーホールのステージ袖には、これまで来演した世界のアーティストのステッカーが貼られている。壁一面のステッカーの中から発見した1990年初頭のザ・キングズ・シンガーズのステッカー。もちろんメンバーは現在と異なるが、受け継がれてきた唯一無二のハーモニーをお楽しみに!

曲に加え、昔のイギリスのクリスマス・キャロルの数々。イギリス民謡「グリーンズリブス」、アイランド民謡「ダニーボーイ」など、心も体も温めてくれるような、心地よい歌声に期待したい。

さらには、過去にCDが大ヒットした彼ら独自のアカペラ編曲版のザ・ビートルズ「イエスタデイ」「ペニーレイン」も楽しみだが、今回のために久石譲に委嘱した平和をテーマとした新作や、木下牧子の「あしたのうた」など、様々なジャンルの超盛りだくさんのナンバーにも注目だ。

これまでアメリカやアジア、オーストラリア、南米各地などでコンサートを行い、年間100万人以上の観客動員を誇る超人気者の彼ら。天にも昇るような気持ち良く、美しいハーモニーを堪能しに、是非足を運んでいただきたい。

【出演】ザ・キングズ・シンガーズ

アイランド民謡:ダニーボーイ/イギリス民謡:グリーンズリブス/レノン&マッカートニー:イエスタデイ/グルーパー:きよしこの夜/バーリン:ホワイトクリスマス ほか

2022.12/15(木) 7:00PM

全席指定 10,000円 (税込)

【お問い合わせ】ザ・シンフォニー チケットセンター

06-6453-2333

【主催】ザ・シンフォニーホール

発売中

素敵なクリスマスムードを
さらに高める優美なアンサンブルが
今冬もザ・シンフォニーホールに響く!

古澤 巖× ベルリン・フィルハーモニック Strings 「愛のクリスマス」



ヴァイオリン 古澤 巖



弦楽アンサンブル ベルリン・フィルハーモニック スtrings

今年もクリスマス、愛に溢れた名曲が盛りだくさん

ザ・シンフォニーホールの冬の恒例となっている、古澤巖とベルリン・フィルハーモニック・Stringsのコンサートの開催が今年も決定した。

古澤巖といえば、5月のThe Symphony Hallにて「ディスコ」をテーマに、アリス・ウインド&ファイアーの「セブテンバー」やアバの「ダンシング・クイーン」といったヒットチューンが飛び出し、ホールが巨大ダンス・フロア

と化するなか、スペシャル・ゲストとして颯爽と登場し、ノリノリで弾きこなして会場を大いに盛り上げたのも、記憶に新しい。

現在もBSテレ東などで好評放送中の「Dの旋律」でも、日本の社交ダンス界のトップ・プロと共演する姿が印象的だが、それは凄腕ヴァイオリニストとしての、彼のごく一面に過ぎない。

これまでに多彩なユニットをいくつも結成し、幅広いジャンルの音楽を奏でてきた古澤。年間トータルで150ものステージをこなす、洗足学園音楽大学の客員教授も務めるなどマルチに活躍中だ。

そんな超多忙な古澤にとっても重要プロジェクトなのが、この企画、名門ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の選抜メンバーとの共演によるツアーだろう。今年もテーマに因んで「クリスマス」そして「愛」に溢れた名曲を盛りだくさんでお届けしていく。

特にホアキン・ロドリゴ作曲の「アランフェス協奏曲」には注目必至。あのギターのための名曲が極上のアンサンブルによってどのように奏でられるのかを楽しみにしたい。そしてイタリアの現代作曲家ロベルト・ディ・マリノが書き上げる新作コンチェルトもこの企画に不可欠の定番作品。今回は待望の「第7番」が披露され

と化するなか、スペシャル・ゲストとして颯爽と登場し、ノリノリで弾きこなして会場を大いに盛り上げたのも、記憶に新しい。

現在もBSテレ東などで好評放送中の「Dの旋律」でも、日本の社交ダンス界のトップ・プロと共演する姿が印象的だが、それは凄腕ヴァイオリニストとしての、彼のごく一面に過ぎない。

これまでに多彩なユニットをいくつも結成し、幅広いジャンルの音楽を奏でてきた古澤。年間トータルで150ものステージをこなす、洗足学園音楽大学の客員教授も務めるなどマルチに活躍中だ。

そんな超多忙な古澤にとっても重要プロジェクトなのが、この企画、名門ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の選抜メンバーとの共演によるツアーだろう。今年もテーマに因んで「クリスマス」そして「愛」に溢れた名曲を盛りだくさんでお届けしていく。

特にホアキン・ロドリゴ作曲の「アランフェス協奏曲」には注目必至。あのギターのための名曲が極上のアンサンブルによってどのように奏でられるのかを楽しみにしたい。そしてイタリアの現代作曲家ロベルト・ディ・マリノが書き上げる新作コンチェルトもこの企画に不可欠の定番作品。今回は待望の「第7番」が披露され

【ヴァイオリン】古澤 巖

【弦楽アンサンブル】ベルリン・フィルハーモニック スtrings

ロベルト・ディ・マリノ:マリノ・コンチェルト「第7番」/ホアキン・ロドリゴ:アランフェス協奏曲/クリスマスソング ほか

2022.12/13(火) 2:00PM

S 8,000円 A 6,500円 U25 3,000円 (税込)

※U25は一般発売よりチケットぴあのみで発売

【お問い合わせ】キョードーインフォメーション 0570-200-888

【主催】ジェイ・ツー/NHKエンタープライズ/ザ・シンフォニーホール

先行予約:9/22(木) 一般発売:10/7(金)

る予定だ。4月にはメンバーとの収録を含む新作アルバム「コンチェルト」海「VIOLENCIA CERTON. 6 IL MAR E」もリリースされたばかりなので、これを聴きながら胸膨らませつつ待ちたい!

使用楽器は、ストラディ・ヴァリウスの中でも最も高価な作品のひとつと言われる1718年製の「サン・ロレンツォ」。

この名器によって紡がれるアンサンブル、そして艶のある響きを聴くことができるこの好機をお見逃しなく!

(文 東端哲也)

ワールド シネマミュージック セレクション

音楽ファンも映画ファンも注目！
圧巻の大パノラマで
ワクワク、ドキドキの世界へ

The Symphony Hall **Super Brass**
ザ・シンフォニーホール スーパー・ブラス
～cooperate with Osaka Shion Wind Orchestra～

きらびやかな光のアートで
さらに楽しい！
プロジェクションマッピング
付き！

『スター・ウォーズ』、『タイタニック』、『ロッキー』など
大ヒット映画のテーマ曲を続々披露！



名作映画のテーマと光のアートが
作る、魅惑の空間！

名作映画には必ずと言っていい
ほど、印象的なテーマ曲がある。
その音楽を聴けば、すぐに映画の
ワンシーンを思い出す。感動的な
映画のシーンは、音楽が加わるこ
とで、さらに人の心に響き、いつ
までも素晴らしい記憶としてずっ
と心に息づいている。映画と音楽

の切っても切れない関係は、改め
てすごい！
10月に開催する『ワールド・シ
ネマミュージック・セレクション』
は、世界中の人々を感動させた名
作洋画の名テーマばかりをお届け
していく。
プログラムは、『スター・ウォー
ズ』、『タイタニック』、『パイレーツ・
オブ・カリビアン』、『ロッキー』、
『ジュラシック・パーク』から、そ
れぞれの物語を彩ったテーマ曲。
すべてが不朽の作品ばかりで、タ
イトルを聞くだけでもう、あの
曲が頭の中を駆けめぐる。ハラ
ハラ、ドキドキ、せつなさ、スリ
リングさあり、聴けば誰でも物語
の主人公になったような気分にな
る、生演奏にぜひ注目していただ
きたい。
演奏は、ザ・シンフォニーホー
ルとOsaka Shion Wind
Orchestraの共同企画
で今年7月にデビュー公演を行っ
たばかりのThe Symphony
Hall Super Brass
だ。Shionと関西の実力
演奏者が集まった大編成のブラ
スバンドならではの迫力満点の演奏
が、映画の世界観、テーマ曲の魅
力を存分に映し出すことだろう。
またこのコンサートは、プロ
ジェクションマッピングも付いて
くる！ホールのシンボルである

[指揮]喜多弘悦 [演奏]The Symphony Hall Super Brass

『スター・ウォーズ』より／『タイタニック』より／『パイレーツ・オブ・カリビアン』より／『ミッシ
ョン:インボッシブル』より／『ジュラシック・パーク』より／『ロッキー』よりロッキーのテーマメ
ドレー ほか

2022.10/25(火) 7:00PM

全席指定 6,600円(税込)

※4歳以上のお子様から入場可能です。

[お問い合わせ]ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[主催]ザ・シンフォニーホール

発売中

パイプオルガンを中央にし、変幻
自在の光のアートが大パノラマで
描かれると、圧巻！そこに映画音
楽がマッチングすれば、まるでア
トラクションを堪能しているよう
な、魅惑の空間が待ち受けている
だろう。
さらに、たくさんのお客様に楽
しんでほしいという思いから、4
歳以上のお子様から入場可能！ど
の世代のお客様にも感動してもら
える独創性が光るコンサートをお
見逃しなく！

秋に聴きたいジャズの名曲決定版！ 精鋭16名がスウィングする！

The Symphony Hall **Big Band** Vol.18

ザ・シンフォニーホール・ビッグ・バンド

Music Director 菊池寿人



The MAJOR

ザ・メジャー

ジャズの王道プログラム

百戦錬磨の16人による、
最強のオンステージ

2016年の結成以降、精力的
にシリーズコンサートを重ねて、
着実にファンを増やしてきたTh
e Symphony Hall B
ig Band(以下TSHBB)。
結成から6年、18回目となるシ
リーズ公演の開催が10月7日に
迫っている。

TSHBBのメンバーは、それ
ぞれが自身のバンドを率いて各方
面で活躍するなど、多くのステ
ージ経験を持っている。今回は、そ
んな百戦錬磨のプレイヤー16人
による、最強のオンステージだ。個々
のプレイが際立ち、そのエネ
ギーが何倍にも膨れ上がる――。

プログラムは、タイトルに冠し
た、超王道の名のとおり、人
気のスタンダードナンバーばかり
だ。スウィングジャズの代表曲「シ
ング・シング・シング」、アレ
ンジによって表情を変えるところが
プレイヤーからも愛され続けている
「枯葉」、ジャズの王道の代名詞と
いえる「A列車で行こう」、美し
いメロディーと変拍子のマッ

グに聴き惚れる「ティク・ファイ
ブ」など、ベスト・オブ・ベスト
を一挙に堪能することができる。

もちろん人気曲ばかりというだ
けでなく、TSHBBの特色を存
分に味わえ、毎回好評のアレン
ジが加わることで、さらに興奮と感
動が湧き上がることだろう。これ
に加えて、ザ・シンフォニーホ
ールで聴く彼らの生演奏は、格別で
唯一無二のものであることも、自
信を持ってアピールしたい。

秋という季節も相まってより
いっそう盛り上がるジャズ！コン
サートの最初から最後まで、一瞬
も聴き逃したくない、心に迫るス
テージを存分に楽しんでいただ
きたい。

[演奏]The Symphony Hall Big Band

A列車で行こう／シング・シング・シング／スペイン／スターダスト／枯
葉／ティク・ファイブ／チュニジアの夜／オン・ザ・サニー・サイド・オブ・
ザ・ストリート ほか

2022.10/7(金) 7:00PM

全席指定 7,500円(税込)

[お問い合わせ]大阪アートエージェンシー

06-6372-4583

[主催]ザ・シンフォニーホール

発売中



日本の歌、秋の歌の魅力が最高に引き出されるひととき

日本のオペラシーンをリードしてきたソプラノの幸田浩子。とくに澄みきった清らかな声と、あらゆる音域をその魅力あふれる声で安定的に満たすテクニックでは、彼女にかなう歌手はいない。

こうした声と歌唱力は、じつは日本語の歌にもおおいに活かされる。それどころか、美しい日本の歌の数々が、幸田に歌われるのを待ち望んでいたかのようである。

事実、幸田は歌声が美しいのももちろんだが、彼女が歌う日本語がまた美しい。それは幸田がどんなときも一音一音を大切に歌っているからにはかならない。

日本語が欧米の言語とまったく異なるのは、カナで表したときの一字が一拍を構成するという点だろう。日本語には五十音があり、子音と母音の組み合わせが五十の音に整理されている。そして、言葉の一拍が一音と一致する。

英語と比べると、わかりやすいかもしれない。たとえば「春」を表わす「spring」。日本流だとス・プ・リ・ン・グと五拍で認識しがちだが、英語ではこれをたった一拍で発音してしまう。一方、日本語で「この道はいつか来た道」と歌うときは、コ・ノ・ミ・チ・ハ・イ・ツ・カ・キ・タ・ミ・チと十二拍

で認識され、一拍にひとつずつ音符がつく。

日本語の歌はこうして拍を大事に歌ってこそ、はじめて詩情が表現され、旋律に美しい情感が宿る。だから、一音一音を大事に歌う幸田の姿勢はそのまま、歌に魂を注ぐことにつながる。

このごろの流行歌では、日本語の拍の原則を壊して、歌詞が英語風に歌われることも多くなった。しかし、歌い継がれてきた日本の叙情歌や愛唱歌はちがう。「この道」も「からたちの花」も「里の秋」も「浜辺の歌」も「初恋」も、言葉の一拍一拍が大事に歌われてはじめて、言葉が生命を得て聴き手の心をゆさぶる。

そういう歌を歌えるソプラノが幸田浩子である。とくに彼女の不純物が混ざらない澄んだ美声は、



写真は昨年行われた同公演の様子です。

【ソプラノ】幸田浩子 【ピアノ】藤満 健

この道／野薔薇／からたちの花／曼珠沙華／薔薇の花に心をこめて／ちいさい秋みつけた／美しい秋／宵待草／里の秋／浜辺の歌／初恋／平城山／ふるさとの／美しき日本のうた 2022(ピアノ・ソロ) (編曲:藤満 健)／見上げてごらん夜の星を／ゴンドラの唄／遠くへ行きたい ほか

2022.10/9(日) 2:00PM
全席指定 4,400円 (税込)
【お問い合わせ】ザ・シンフォニー チケットセンター
06-6453-2333
【主催】ザ・シンフォニーホール

発売中

さわやかな秋の高い空のようで、同時に、この季節ならではの寂寥感も声に宿すから、季節を感じる歌詞のひとつひとつが冴えわたるに違いない。プログラムには「見上げてごらん夜の星を」も並ぶ。まさに夜の星にも届かんばかりの幸田の声を、この曲が求めているとはいえないだろうか。

幸田はイタリア語の歌も、ドイツ語の歌も、フランス語の歌も、それぞれの言葉が映えるように歌う。そして日本語の歌は、イタリア人が明瞭なイタリア語でイタリア歌曲を歌うように、一音一音を際立たせて、日本語を美しく響かせる。プログラムに並んだ秋にこそ聴きたい歌たち。それらは幸田が歌うように歌われたがっている。

(文 香原斗志)

クラシック・キャラバン2022 大阪公演 クラシック音楽が世界をつなぐ ～輝く未来に向けて～ 『華麗なるガラ・コンサート』



「クラシック・キャラバン」は、コロナ禍で困難な状況におかれたクラシック音楽界を活性化させるために、昨年初めて(二社)日本クラシック音楽事業協会が企画した全国規模の公演プロジェクト。最も旬なアーティストたちが全国規模で彩り豊かなプログラムを繰り広げていく。

それに先立ち、記者会見が8月に行われた。出席したのは、プロジェクト・アンバサダーである宮崎美子と各公演の出演アーティストを代表して指揮の田中祐子、ピアノの仲道郁代、声楽の福井敬。発表された今年の「クラシック・キャラバン」のポイントは、「バラエティとオリジナリティ」。昨年は、共通した1つの企画を全国19公演で展開して行われたが、今年は全国21公演、各都市それぞれが企画から運営実施を担うスタイルへと深化させ、それぞれの個性が表われた企画となっている。オペラや室内楽などジャンルも違えば、出演者、曲目ももちろん違う。

会見に臨んだ3名は、「お客さまやスタッフのみならず、オーケストラ、出演者とその瞬間だけでも音楽に没頭できた最高だと思っています」(田中)。「クラシック音楽がこ

この世のなかで一体何なのかを提示できるよう、みんなで考える機会になればと思います」(仲道)。「さまざまな枠を超え、これだけのアーティストが一堂に揃い、ハイレベルの演奏を聴ける機会は普段ではあり得ないかもしれません」(福井)と述べた。

ザ・シンフォニーホールでの「クラシック・キャラバン2022」は、10月22日に開催される。コンサート前半は、オーケストラとソプラノ器によるコンチエルト(第1楽章のみ)。赤坂達三、笹沼樹、南紫音、そして長富彩が、それぞれモーツァルト、ドヴォルザーク、メンデルスゾーン、ショパンの人気コンチエルトを弾く。

後半は、ドラマティックなオペラ・プログラム。林正子、林美智子、西村悟、成田博之が、傑作オペラの中から超名曲を歌う。そして、関西二期会が特別合唱団を結成して合唱曲を披露する。共演は指揮の沼尻竜典と、日本中からジャンルを越えた精鋭たちが集うスーパー・クラシック・オーケストラ。1度の公演にして、これだけ内容濃く、充実のコンサートは見逃せない。

日本のトップ・アーティストによる、ザ・シンフォニーホールのために用意されたスペシャルなプログラムを聴く日が待ち遠しい。

(文 道下京子)



文化庁 統括団体による
アートキャラバン事業(コロナ禍からの文化芸術活動の再興支援事業)

2022.10/22(土) 3:00PM
S 6,500円 A 5,000円 B 3,500円 (税込)
【お問い合わせ】ザ・シンフォニー チケットセンター
06-6453-2333
【主催】一般社団法人日本クラシック音楽事業協会／大阪アートエージェンシー



シャルル・リシャール＝アムラン ピアノ・リサイタル

聞き手を心底、幸せな気分してくれる
アムランのオール・ショパン・プログラム



※写真は2018年5月12日にザ・シンフォニーホールで行われたリサイタルの様子です。

**人柄がにじみ出るような
温かみと誠実さ**

2021年開催のショパン国際ピアノ・コンクールは日本人の活躍で大いに沸いたが、同コンクールは毎回世界に羽ばたくスターを輩出してきた。2015年第2位に輝いて以来、一躍注目を集め、今や世界で高い人気を誇るカナダ出身のシャルル・リシャール＝アムランも、そのひとりだろう。

アムランは、次代を担うピアニストとして愛され、記憶に残る奏者へと成長をとげつつある。その演奏は彼の人柄がにじみ出るような温かみと誠実さ、そしてショパンの音楽へのあふれるような敬愛に満ち、聞き手を心底、幸せな気分にしてくれる。まさに音楽の喜

びを伝えてくれる得がたいピアニストなのだ。

そんな彼の演奏は多くの人々の心をとらえ、2018年のザ・シンフォニーホールでのリサイタルが完売という記念碑的なコンサートだったのは記憶に新しい。「コンクール後、故国カナダ以外での演奏機会が増えた」というアムランが、4年ぶりにザ・シンフォニーホールに登場する。2020年に予定されていた公演が延期となっていたため、関西の音楽ファンにとってはまさに待ちに待った来日である。

プログラムは、オール・ショパン・プログラム。彼いわく「ショパンの音楽が持つロマン性を全面に出した」選曲になっているという。リリカルな歌心にみち、繊細な色調に彩られたショパンの世界にはさまざまな魅力が詰まっている。

アムランは24の前奏曲を2020年に録音し、好評を博しているが、今回の来日公演でも組み込まれた。有名な「雨だれ」など音楽ファンにはなじみ深い名作を含んだ24曲から成るが、アムランは全体の曲順はショパンが熟慮したもので、「すべての前奏曲が最後の24番二短調に向かって進んでいる感じだ」と考えているという。

さらに輝かしいピアノの響きを

[ピアノ]シャルル・リシャール＝アムラン

《オール・ショパン プログラム》アンダンテ・スピアノと華麗なる大ポロネーズ op.22/ピアノ・ソナタ 第2番 変ロ短調 op.35「葬送」/24の前奏曲 op.28

2022.12/11(日) 2:00PM

全席指定 5,000円 (税込)

[お問い合わせ]ザ・シンフォニー チケットセンター

06-6453-2333

[主催]ザ・シンフォニーホール

発売中

(文 伊藤制子)

堪能できる「アンダンテ・スピアノ」と華麗なる大ポロネーズ、そしてピアノ・ソナタ第2番「葬送」というラインナップだ。「葬送」は後期ロマン派さえ想起させるような時に重厚で深淵な内容をもち、ショパンの抒情味が極限まで突き詰められた名曲中の名曲だ。ショパンを愛してやまないアムランがこの畢竟の名作ソナタをどのように聞かせてくれるか、今から楽しみである。

親日家で、2019年にはプライベートで来日し、富士山を訪れるなど、日本を満喫したというアムラン。2022年も暮れようという12月。アムランが紡ぎ出す熟成されたショパンの世界は、一年のしめくりにふさわしい充実したコンサートになるだろう。

音楽に新たな生命を
吹き込むプログラム

才能豊かな新星が次々と現れ、かつてないほど活況を呈しているピアノ界にあって、1987年11月5日の昭和女子大学人見記念講堂でのソロ・リサイタル・デビュー以来、つねに第一線で活躍し、年を追うごとにその演奏には深みが増している。

2021年秋、文化庁芸術祭大賞と文化庁長官賞を受けるなど、名実ともに日本を代表するピアニストの仲道郁代は、そんな希有な存在ではないだろうか。作品に向き合う真摯な姿勢とあくことのない探究心を持ち、チャレンジングな仲道は、大阪のファンにも長らく愛されてきた。

新たな生命を吹き込むリサイタルになるだろう。ポロネーズ第1番、ポロネーズ第2番、さらに「革命」や「別れの曲」のニクネームで親しまれている練習曲など、音楽ファンにおなじみの曲がラインナップされている。そしてバラード、ワルツ「華麗なる大円舞曲」にノクターンの美しい調べの3曲ののち、民族リズムによる名作「アンダンテ・スピアノ」と華麗なる大ポロネーズ」でしめくられる選曲だ。

今回の演奏会では、「希望と再生への祈り」という崇高なテーマが掲げられた。仲道は、ショパンの珠玉の名作を通じて、音楽の貴重な力を伝え、聴衆にも希望と愛をもたらしてくれるに違いない。そんなリサイタルには今から心がときめく。

(文 伊藤制子)

[ピアノ]仲道郁代

《オール・ショパン・プログラム》ポロネーズ 第1番 op.26-1 変ハ短調/ポロネーズ 第2番 op.26-2 変ホ短調/12の練習曲 op.10-12 ハ短調「革命」/12の練習曲 op.10-3 ホ長調「別れの曲」/バラード 第1番 op.23 ト短調/ワルツ 第1番 op.18 変ホ長調「華麗なる大円舞曲」/ノクターン 第1番 op.9-1 変ロ短調/ノクターン 第2番 op.9-2 変ホ長調/ノクターン 第3番 op.9-3 ロ長調/アンダンテ・スピアノと華麗なる大ポロネーズ op.22 変ホ長調

2022.11/6(日) 2:00PM

全席指定 4,500円 (税込)

[お問い合わせ]ザ・シンフォニー チケットセンター

06-6453-2333

[主催]ザ・シンフォニーホール

発売中

仲道郁代 ショパンを弾く ～希望と再生への祈り～

崇高な主題のもと、
音楽の力を伝える
希望に満ちたコンサート

プロジェクション
マッピング付き!!

The Symphony Hall ブラス de クラシック・フェスティバル

The Symphony Hall 89
Super Brass
ザ・シンフォニーホール スーパーブラス
～cooperate with Osaka Shion Wind Orchestra～

奏者もお客様もホールみんなで、
“めっちゃ楽しい”クラシック音楽の世界へようこそ!

指揮 喜多弘悦
ザ・シンフォニーホール 取締役 GM / 音楽総監督

※写真は2022年7月23日The Symphony Hall Super Brass Vol.1の様子です。

11月はクラシック音楽の名曲ばかりをフィーチャー

吹奏楽のレパートリーは多岐にわたり、どのジャンルの楽曲であっても表情を豊かに変えて、曲そのものの魅力を再発見させてくれる。

11月、クラシック音楽の名曲を吹奏楽でお届けしていく「ブラス de クラシック・フェスティバル」が開催されることが決定した。

演奏するのは、The Symphony Hall Super Brass (以下TSHSB)、指揮は喜多弘悦。

今年7月のデビュー公演後、8月にはアニメをテーマにした「親子 de Brass」を開催。そして10月には映画音楽(洋画)をフィーチャーした「ワールド・シネマミュージック・セレクション」12月にはゴスペルをテーマにしたコンサートを行う。様々なジャンルの音楽を展開していくことで、すべての音楽ファンに吹奏楽の魅力を幅広くアプローチしていく。

この「ブラス de クラシック・フェスティバル」では、吹奏楽コンサートでも人気の高い交響詩「ローマの祭り」より、「イーゴリ公」より、ダッタン人の踊り、そして、クラシック通でなくても聴き馴染みのある「新世界より」第4楽章、「アルルの女」より、そ

[指揮] 喜多弘悦
[演奏] The Symphony Hall Super Brass ほか

レスピーギ:交響詩「ローマの祭り」より／ボロディン:「イーゴリ公」よりダッタン人の踊り※合唱あり
ノドヴォルザーク:交響曲 第9番「新世界より」第4楽章／ビゼー:「アルルの女」より／ヴェルディ:歌劇「アイダ」より凱行進行曲

2022.11/30(水) 7:00PM
一般 6,600円 18歳以下 3,300円(税込) ※4歳以上のお子様からご入場可能です。
[お問い合わせ]大阪アートエージェンシー 06-6372-4583
[主催]大阪アートエージェンシー
先行予約:9/22(木) 一般発売:9/25(日)

て歌劇「アイダ」より、凱行進行曲、など、バラエティ豊かなプログラムとなっている。艶やかな旋律とエキゾチックな曲想が印象的な「ダッタン人の踊り」では合唱も加わり、美しくも迫力満点のクライマックスに期待が高まる。

この公演でもまた、TSHSBのモットーである「めっちゃ楽しく&ド派手に」が展開される。奏者もお客様もみんな、ホール全体で「クラシック音楽」の素晴らしさに浸りたい。

プロジェクションマッピング×パイプオルガン

超絶のスター・ウォーズ 2022

今年も、パイプオルガンがスゴ過ぎる!!

Interview
オルガン 大木麻理

「超絶、シリーズのオルガニスト 大木麻理にインタビュー！」

いま最も人気を集めているオルガニスト大木麻理は、ザ・シンフォニーホールの「超絶」シリーズすべてのレパートリーに出演してきた。これまでの「超絶のスター・ウォーズ」をさらに深化させた本公演について話を聞いた。

——超絶シリーズの印象をお聞かせください。

このシリーズを知った時、「こういう手があったか!」と衝撃を受けました。照明や舞台などホールのみならず、お二人のマルチパーカッション、そして私で作り上げているのがこの超絶シリーズで、「チーム超絶」のような感じです。ここまでの規模のものは、他のホールではなかなかやらないので、ザ・シンフォニーホールはすごいと思います。

——プログラムのなかの、思い出の曲を教えてください。

子どもの頃の誕生日には恐竜の図鑑や模型を買ってもらいました。

考古学にものすごく憧れていたので、映画の「ジュラシック・パーク」が発表された時にも「きたー!」という気持ちで、何度も映画を見ました。

——ザ・シンフォニーホールのスィス・クーン社製のオルガンの魅力を教えてください。

個性豊かで多彩な音色があることと、ホールの素晴らしい音響に適したサイズと響きのバランスの良い楽器だと思っています。

——このシリーズではどのように音作りをこだわっていますか?

ご覧になる方のなかには、「スター・ウォーズ大好き!」「あの音楽ですよね」と、みなさんが思い描いている映画の音楽のイメージがあると思うのです。それを、そのまま再現しようとするのではなく、オルガンという楽器を通して、いかに魅力的に聴こえさせることができるかにこだわっています。いわゆるオルガンらしい音色も使いますし、オルガニストの中で「この音の組み合わせはタブーだよ」ということも、その音楽に合うと思えば、あえて禁則を使うこともあります。

プロジェクションマッピングや照明の世界観がとて大きいので、それに負けない音!そして、繊細な光など素晴らしい映像を作ってくださいるので、それを消さないよ

[オルガン] 大木麻理

「インディ・ジョーンズ」よりレイダース・マーチ／「ハリー・ポッター」よりメドレー★／「E.T.」よりフライング・テーマ／「ジョーズ」よりメイン・タイトル／「ジュラシック・パーク」よりジュラシック・パークへようこそ★／「スター・ウォーズ」よりメドレー★／「バック・トゥー・ザ・フューチャー」よりテーマ★／「パイレーツ・オブ・カリビアン」よりメドレー★
★=プロジェクションマッピング付き

2022.11/26(土) 3:00PM
※休憩なし。約60分間のコンサートです。※4歳以上のお子様からご入場可能です。
全席指定 3,000円(税込)
[お問い合わせ]ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333
[主催]ザ・シンフォニーホール

発売中

うにするなど、バランスを考えて作っています。

——4歳から入場可能の1時間公演です。

小さなお子さまも泣いたりせず、ちゃんと聴いていますよ。飽きないだろうな...あの感じは。

——読者のみなさまにメッセージを!

1時間ではありますが、非日常空間を楽しみにご来場いただければと思います。シンブルに楽しめる公演だと思えますので、満足感とともに帰りいただけるのではないかと自信があります!

(文 道下京子)



迫力満点のオーケストラサウンドが
本場アメリカからやってくる!



**本場のスター・オーケストラが
映画音楽をより輝かせる**

2023年の聴き始めは、エンターテイメントの本場アメリカからやって来る極上のサウンドで。大人気のハリウッド・フェスティバル・オーケストラ（以下HFO）によるニューイヤーコンサートだ!

1990年に音楽プロデューサーのジョン・ジャイアッティノによってアトランタで結成されたHFO。高い技術や解釈力はもちろん、映画、テレビ、ミュージカルに至る幅広いレパートリーを誇ることから、「スター・オーケストラ」と讃えられている。①本場のオーケストラによる迫力の演奏で、②誰もが聴いたことのある名曲や名旋律が次々に流れ、③その生演奏に乗せてスクリーンに実際の映像も上映するというのが、彼

らの大きな聴きどころかつ観どころだ。今回で6度目の来日となるが、毎回各地で完売続出。さらに地方都市での公演では、感極まった最前列のお客様が立ち上がって踊り出したこともあるというから凄い。

今回の予定演目は、彼らの十八番である映画音楽。予定演目には、「風と共に去りぬ」「ロッキーマン」「タイタニック」「ローマの休日」「ティファニーで朝食を」「シャレード」。そして、映画音楽の巨匠ジョン・ウィリアムズが手がけてきたゴージャスな名曲集（「E.T.」「スーパーマン」「インディ・ジョーンズ」など）まで。戦後の映画史をダイジェスト的に網羅した極上のプログラムをお贈りする。

なお、演奏中には映像を流すと前述したが、それは全体の3分の1ほど。HFOの公演は、映画音楽そのものの魅力を映像と共に楽しんでもいただくことがコンセプトで、生演奏がBGMに後退しないように企図しているという。それが各国で大人気を博している理由なのかもしれない。

そんな魅惑の公演の指揮および編曲を担当するのは、ロイド・バトラー。アトランタ交響楽団、ピッツバーグ交響楽団、ダラス交響楽団などの名門オケに定期的に客演するクラシック本流の実力派で、

発売中

[指揮] **ロイド・バトラー**
[管弦楽] **ハリウッド・フェスティバル・オーケストラ**
[ゲスト歌手] **ビリー・キング**

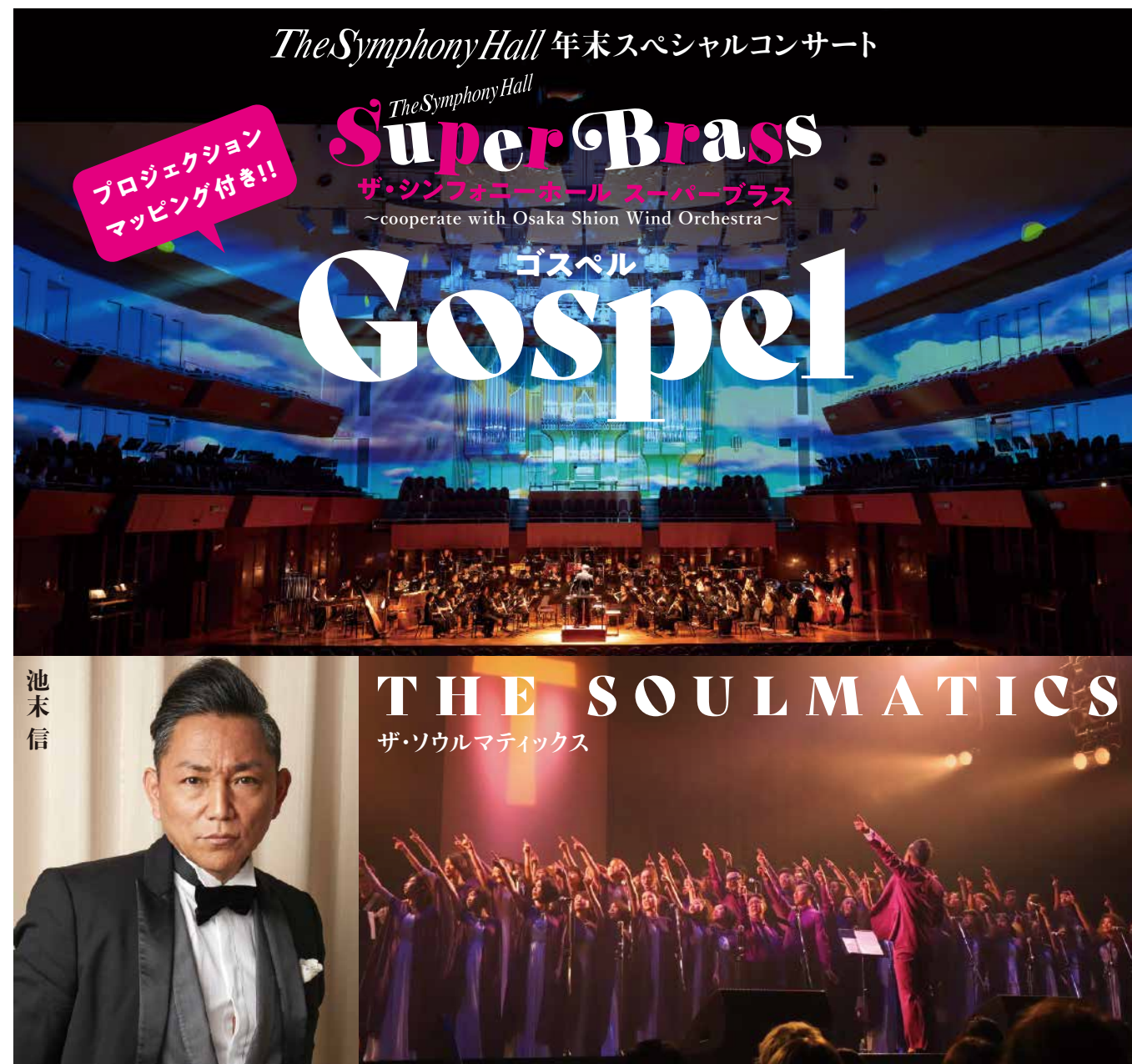
【オードリー・ヘップバーン特集】ティファニーで朝食を／ローマの休日／シャレード
【ジョン・ウィリアムズの世界】E.T.／スーパーマン／インディ・ジョーンズ【珠玉の名曲集】ひまわり／風と共に去りぬ／ライムライト／暮情／ニュー・シネマ・パラダイス／ミッション:インボッシブル／ロッキーマン／タイタニック ほか

2023.1/6(金) 7:00PM
S 10,000円 A 8,000円 (税込)
[お問い合わせ]ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333
[主催]ザ・シンフォニーホール

ヨーロップ、オーストラリア、中南米などでも国際的に活躍。他にも、オペラやミュージカルなどの分野でも非常に評価が高い名匠なので、今回も安定力と洗練を備えたタクトで聴き手を魅了してくれるに違いない。

今回はまた、ゲスト歌手としてビリー・キングも参加。彼は幼少期の7歳からステージに立ち続けている早熟の天才で、HFOの来日公演でも4度に渡ってゲスト出演。今回はさらなる深みと艶やかさを湛えた美声で、指揮者やオケとも絶妙のコンビネーションを聴かせてくれるはずだ!!

(文 渡辺謙太郎)



[指揮] **喜多弘悦** [演奏] **The Symphony Hall Super Brass**
[ゴスペル] **THE SOULMATICOS**

『天使にラブ・ソングを...』より「I Will Follow Him」「ジョイフルジョイフル」ほか

2022.12/30(金) 3:00PM
一般 6,600円 18歳以下 3,300円 (税込) ※4歳以上のお子様からご入場可能です。
[お問い合わせ]ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333 [主催]ザ・シンフォニーホール
先行予約:9/22(木) 一般発売:9/25(日)

**吹奏楽とゴスペルの
コラボが実現!**
**パワフルな演奏&魂の歌声で
年末をハッピーに彩る!!**

♪吹奏楽×ゴスペル♪
新たに響くハーモニー

数多くのアーティストによるプレミアムなコンサートが続く今冬のザ・シンフォニーホール。12月のラインナップに、吹奏楽×ゴスペル企画が急遽追加決定。ザ・シンフォニーホールに新たなハーモニーが燦然と輝く!

演奏は、今年7月にデビュー公演を行ったばかりで、この秋から冬にかけてホール40周年を飾る様々な企画にも続々と登場するThe Symphony Hall Super Brass (以下TS HSB)。

コラボレーションするのは、ゴスペルプロデューサーの池末信率いるTHE SOULMATICOS (ザ・ソウルマティックス)。彼らはニューヨーク、シカゴでの国際イベントへの参加や長瀬剛、ゆず、水樹奈々などのアーティストのバックコーラスを務めるなど、国内外で高い評価を得ている、唯一無二のゴスペルグループだ。

プログラムは、大ヒット映画「天使にラブ・ソングを...」から人気ナンバーをセレクト。TS HSBのパワフル&ダイナミックな演奏と聴くものの心を揺さぶる力強い魂の歌声は、果たしてどんな素敵な化学反応を見せてくれるか、期待が高まる!

三浦一馬 五重奏団 《PIAZZOLLA Standards & Beyond》

バンドネオンの俊才が贈る
ピアソラの珠玉の名曲

[バンドネオン]三浦一馬
[ヴァイオリン]石田泰尚 [コントラバス]高橋洋太
[ギター]大坪純平 [ピアノ]山中惇史

悪魔のロマンス／ミケランジェロ70／天使のイントロダクション／天使のミロンガ ほか

2023.2/4(土) 7:00PM

全席指定 5,500円 (税込)

[お問い合わせ]Mitt 03-6265-3201

[主催]日本コロムビア／ザ・シンフォニーホール

先行予約:9/22(木)
一般発売:9/25(日)



バンドネオン 三浦一馬

昨年が生誕100周年で、今年が没後30年。その2つの節目に行われた様々な企画によって、タンゴの革命児ピアソラの名声はさらなる強固さと広がりを獲得した。そこで大きな役割を果たしたのが、バンドネオンの俊才・三浦一馬と彼が率いるキンテート（五重奏団）だったことは言うまでもない。

キンテートとは、ピアソラが生涯に渡ってこだわった編成。「4人でも6人でもなく、5人じゃないとダメ。各楽器がグラデーションのような役割を果たし、すべてを抑えている。隙間を人数で埋めるのではなく、5人で埋めていくのが面白さ」とは三浦の弁。今年5月に行われた大阪公演は、まさにこの言葉を体現した名演だった。

そして来年2月に彼らの待望の再演が決定。この公演は、12月にリリース予定の新作を記念して行われ、「天使のミロンガ」「天使のイントロダクション」「ミケランジェロ70」など、珠玉のピアソラ作品をたっぷりお届けする。

三浦が「本当に色気があってセクシーな、魔力というか吸引力」と語るピアソラの魅力。今回の公演テーマ「PIAZZOLLA Standards & Beyond」の通り、ピアソラの伝統を受け継ぎながら、現代的に、より一層洗練された彼らの感性を体感しよう。

(文 渡辺謙太郎)

Le coffre à musique ~音楽の宝石箱~

キラキラ輝く全3回に渡る音楽の宝石箱。
ラストを飾る11月はオール・ラヴェル・プログラム

[指揮]尾高忠明 [ピアノ]岡田 奏
[管弦楽]大阪フィルハーモニー交響楽団

《オール・ラヴェル・プログラム》組曲「マ・メール・ロワ」／「ダフニスとクロエ」第2組曲／ピアノ協奏曲ト長調／ボレロ

2022.11/25(金) 7:00PM

A 5,000円 B 4,000円 C 3,000円 (税込)

[お問い合わせ]大阪フィル・チケットセンター 06-6656-4890

[主催]公益社団法人大阪フィルハーモニー協会／ザ・シンフォニーホール

発売中



指揮 尾高忠明

尾高忠明と大阪フィルハーモニー交響楽団が全3回に渡って開催するフランス音楽シリーズ。ラストを飾る11月の公演が迫る！

2021年に指揮者生活50周年を迎えた尾高忠明は、大阪フィルの音楽監督に就任以来、毎年「作曲家シリーズ」コンサートを展開し続けてきた。そして就任5年目となる今年には、作曲家の枠を超えて、美しく彩りある音色が印象的なフランス音楽をフィーチャーした。

第1回目の6月にはベルリオーズ、ブラーク、デュリュフレ。2回目の8月にはドビュッシー、ビゼー、デュカスなど、趣向を凝らしたプログラムを渾身の演奏で楽しませてくれた。そして迎える11月には、尾高が「フランス音楽をやるなら欠かせない」というオール・ラヴェル・プログラムが実現する。

壮麗な演奏に期待が高まる組曲「ダフニスとクロエ」、岡田 奏を迎えるピアノ協奏曲、そして、世界で愛され続けている傑作「ボレロ」。この曲は、両親がパリにてラヴェルがボレロを指揮する公演を鑑賞したことがあり、そのエピソードも併せて、尾高にとって特別な思い出があるという。繰り返されるリズムと旋律が、恍惚感を呼び起こしてくれるこの曲では、音楽の宝石箱、のクライマックスにふさわしい、キラキラとした感動のシーンを味わうことができるだろう。

ザ・シンフォニーホール
クリスマス
オルガンコンサート
2022

変幻自在の壮麗な響きを味わう。
今冬は富田一樹が登場！

聖なる調べにじっくり
耳を傾ける絶好の機会

今や日本を代表するオルガニストのひとりといえば、この人だろう。2016年に第20回バツハ国際コンクール日本人として初めての覇者で、未来の巨匠最有力候補である富田一樹だ。牙えたテクニクに加えて、学究的な知性派の側面ももち、バツハの気高く深淵な世界を表現する至芸には、バツハの故国の楽界からも大きな賛辞が寄せられた。国内外での躍進もめざましく、ザ・シンフォニーホールでのコンサートは毎回完売を記録する人気奏者だ。

大阪出身で、大阪音楽大、同大学院でオルガンを学び、ドイツのリューベック音楽大学大学院に留学して研鑽を積んだ富田にとってザ・シンフォニーホールはホームグラウンド。

「中学生のとき、バツハのオルガン作品の録音を聞き、感銘を受けたことでオルガニストを志した」



オルガン 富田一樹

という富田が、今回取り上げるのは、本場仕込みのバツハ作品から近代までの幅広いレパートリーである。「バツハほどドラマティックなハーモニーをつくる作曲家はいない」と語る富田。「前奏曲とフーガハ短調 BWV549」と「トッカータとフーガヘ長調 BWV540」では、バツハの技巧的な華やかさと対位法の妙の両方を堪能できる。それに対して、「天使の群れ、天より来れり BWV607」、「甘き喜びのうちに BWV608」、そして「我らキリストを讃えまつらん BWV611」は、クリスマスのコラーレ小品で、敬虔なプロテスタント教徒としてのバツハの美質が際立つ。富田がドイツで磨き上げたバツハの世界が、あますことなく開示されることだろう。

バツハに加えて、フランスのガストン・ペリエのきらびやかな「トッカータ」、「カノン」でおなじみのバツヘルベルの変奏曲「シャコンヌヘ短調 P.43」も取り上げられる。加えてフランス的な明るい響きの作品で、マリアへの敬虔な祈りを捧げるサン・サーンスの「アヴェ・マリア」、フォーレの「レクイエム」の中の一曲である「ピエ・イエズ」などもプログラムイングされており、色とりどりの響きを聞かせてくれるだろう。さらに

発売中

[オルガン]富田一樹

G.ペリエ:トッカータ ニ短調／J.バツヘルベル:シャコンヌ ヘ短調 P.43
／サン＝サーンス:アヴェ・マリア／G.フォーレ:ピエ・イエズ／G.F.ヘンデル:オンブラ・マイ・フ／J.S.バツハ:前奏曲とフーガ ハ短調 BWV549
／J.S.バツハ:天使の群れ、天より来れり BWV607／J.S.バツハ:甘き喜びのうちに BWV608／J.S.バツハ:我らキリストを讃えまつらん BWV611／J.S.バツハ:トッカータとフーガ ヘ長調 BWV540

2022.12/23(金) 2:00PM

全席指定 3,000円 (税込) ※休憩なし。約60分間のコンサートです。

[お問い合わせ]ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[主催]ザ・シンフォニーホール

はオペラ「セルセ」の一曲で、名旋律として名高いヘンデルの「オンブラ・マイ・フ」がオルガンの壮麗な響きで表現されるのも期待だ。

何かと気忙しい年末、そしてクリスマス時期だが、こんな時こそ、この一年を振り返り、オルガンの聖なる調べにじっくり耳を傾ける絶好の機会だろう。ザ・シンフォニーホールのスイス製のオルガンは3732本のパイプをもち、変幻自在な響きを可能にしてくれる楽器として名高い。富田のオルガンの豊かな音色は、2023年へ向けて、私たちに新たな光をもたらしてくれるにちがいない。

(文 伊藤制子)